

第105回記念二科展鹿児島巡回展

巡回鹿児島展が令和4年3月6日（日曜日）～13日（日曜日）、鹿児島県立歴史・美術センター黎明館で開催された。鹿児島県はまん延防止処置の解除日3月6日にオープン、鹿児島で「春を呼ぶ美術展・二科展」として初日から盛会であった。

不安なコロナ禍、初日のギャリートークは二科ファンで賑わい開催初日、我々支部同人への励ましとなった。

開催前の1月、支部全体会でコロナ感染対策を話し合い、出来る限りの準備をして開催した。また今回、前売り券、当日券、招待券の裏側に入場者の連絡先・氏名欄・連絡先の記入欄を印刷しコロナ対策の一つとした。記入スペースの狭さ、老眼鏡等の準備などの幾らかの反省は残るがやって良かったと思う。広報はポスターと併せ、地元新聞社に広告2回（モノクロ作品4点）、会期中に二科展作品紙上展（カラー作品6点）を掲載した。新聞紙面の事情はあり事前広告の時期、タイミングなど考える必要と他に効率の良い方法がないか反省が残る。

ウクライナ交流事業は二科展本展で知るところであるが2月24日、ロシアのウクライナ侵攻は大きなニュースになった。支部では、SMサイズ・0号額絵販売チャリティーの売り上げの一部をウクライナ支援（ユニセフへ）とした。コロナ禍、第105回記念二科展巡回鹿児島展開催は会期7日間となった。前回の第103回巡回鹿児島展の入場者数に近い2,167名の入場者となった。

巡回鹿児島展は絵画画123点（会員98点、受賞者9点、地元出品者14点、宮崎支部会友3点）、彫刻8点（全国巡回作品7点、地元会員+1点）、写真91点（会員24点、受賞者61名、地元出品者6名）、デザイン99点（会員30点、受賞者62点、地元7点）を展示。主催は公益社団法人二科会、南日本新聞社、後援・鹿児島県、協賛・薩摩白波。報告の終わりに巡回鹿児島展の今後の課題として支部同人の負担減額、展覧会パンフレットの経費、巡回展の広報の工夫など課題も多い。他の地方巡回展の広報、情報などを参考にしていきたい。

鹿児島支部長 祝迫正豊



▲鹿児島会場 黎明館ご楼門



▲支部同人の皆さん



▲初日テレビ取材風景



▲ポスター、新聞紙上展



▲絵画部トーク



▲写真部トーク



▲デザイン部展示